



©Marie Staggat

FRANCESCO TRISTANO

ゴルトベルクを弾く

J.S. Bach: Goldberg Variations

伝統と革新 時空を超える新時代の奇才

フランチェスコ・トリスターノ

J.S.バッハ
イタリア協奏曲 BWV971 フランス風序曲 BWV831
ゴルトベルク変奏曲 BWV988

全席指定:4,500円 学生:2,500円
*学生券は電気文化会館チケットセンターのみ取り扱い

2017.7.4 [火] 19:00開演

ザ・コンサートホール 名古屋・伏見 電気文化会館
主催 | ユーラシック 協力 | 電気文化会館、株式会社ヤマハミュージックジャパン
お問合せ | 電気文化会館 052-204-1133

チケット発売
2.25 [土]

おチケツ
抜い

電気文化会館チケットセンター 052-204-1133
アイ・チケット 0570-00-5310 <http://clanago.com/i-ticket>
チケットぴあ 0570-02-9999 <http://t.pia.jp/>
芸文PG 052-972-0430

グールド以後、最も刺激的な《ゴルトベルク》を弾く男 フランチェスコ・トリストアーノ —— 前島秀国(サウンド&ヴィジュアル・ライター)

バッハの鍵盤音楽の中でも特に人気の高い《ゴルトベルク変奏曲》は、実のところ、ピアニストに“無茶振り”の課題を突きつけてくるリスクな作品だ。そもそも、2段鍵盤のチェンバロのために書かれた作品をピアノで弾くこと自体が無謀だし、バッハが技巧の粋をこらして書いた対位法を1時間近くも弾くには、並外れた知性とスタミナが必要だ。仮に演奏できたとしても、ピアノという土俵で勝負する以上、その解釈は必ずやグレン・グールドの名盤と比較されてしまう。フランチェスコ・トリストアーノは、そうした困難な課

題のすべてを易々と克服してしまった、稀有な才能の持ち主である。グールドが影響を受けたとされるロザリン・テューレックの前で《ゴルトベルク》を演奏し、彼女を唸らせたというフランチェスコ。グランドピアノの最高峰・ヤマハ「CFX」の能力を駆使し、あたかも軽やかなダンスのステップを踏むように、バッハの知的な対位法の綾を見事に解きほぐしていくフランチェスコ。グールド以後、最も刺激的な《ゴルトベルク》を聴きたければ、フランチェスコのリサイタルに足を運ぶべきだ。



©Aymeric Giraudel

フランチェスコ・トリストアーノ (ピアノ) Francesco Tristano, piano

2004年のオルレアン(フランス)20世紀音楽国際ピアノコンクールで優勝、またルクセンブルク・フィルハーモニーによりヨーロッパ・コンサートホール協会の「ライジングスター」ネットワーク・アーティストに選出され、ウィーンのエムジークフェラインを含むヨーロッパの著名ホールで数多くリサイタルを行う。

2000年、19歳でミハイル・プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管弦楽団とアメリカ・デビューを果たす。これまでにミハイル・プレトニョフ、エマニュエル・クリヴィヌ等の著名指揮者と共演。さらに2010年には、ハンブルク交響楽団(音楽監督:ジェフリー・テイト)のレジデント・アーティストに選ばれ、ソロ・リサイタル、テクノ音楽の公演、さらにハンブルク交響楽団のソリストとして多数の公演に出演。

2001年の初レコーディングではバッハの「ゴルトベルク変奏曲」を録音、その後バッハの鍵盤協奏曲の全チクルスを録音。2010年2月の来日公演では全国で6公演行い大成功を収め、同年3月、ユニバーサ

ル・クラシック&ジャズ(ドイツ)と専属契約を結ぶ。2011年3月にバッハ、J.ケージ、自作の新曲でドイツ・グラモフォンからCD「bachCage」をリリース。同年6月再来日を果たし、全国で「bachCage」のプログラムを含む6公演を行う。この6月の来日ではNHKBSプレミアム「クラシック倶楽部」にも出演。2012年3月、京都コンサートホールでドイツ・グラモフォンCD第2弾「Long Walk」を録音、9月にリリース。2014年6月、アリス=紗良・オットとのピアノ・デュオのアルバム「スキヤンダル」をリリース、合わせて全国5箇所ですアリス=紗良・オットとのピアノ・デュオ・リサイタルを行う。2016年3月、ライブツィッヒで自作のピアノ協奏曲「Island Nation」をクリスチャン・ヤルヴィ指揮MDR交響楽団と世界初演する。

1981年、ルクセンブルク生まれ。ルクセンブルク音楽院、王立ブリュッセル音楽院、ラトヴィア音楽アカデミー、パリ市立音楽院で研鑽を積んだ後、1998年ジュリアード音楽院に入学、修士の学位を得る。